

令和2年度学校評価報告書

北海道旭川西高等学校

1 本年度の重点目標

- (1) 授業改善や探究活動等の充実を図ると共に、組織的な指導によって学力を高める。
- (2) 自らの生き方を考え、進路を選択できる力や態度を育む。
- (3) 生徒の主体的な活動の充実を図り、望ましい人間関係を形成できる生徒を育てる。
- (4) 安全で安心できる活動を通して、体力の向上を図る。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教育目標 経営方針	学校評価をはじめ、授業評価等の活用について、約8割の教員が概ね良好と回答している。一方で、各評価を十分に活用できていないとの意見もあることから、目標に沿った教育活動が行われているかを評価・検証する方法について改善を図る。 また、教職員の働き方が改革については、昨年から検討を重ね、業務の平準化と効率化に努めている。超過勤務時間が全体として2割程度削減されている一方、部活動指導等のため、土日出勤する教員が多く、疲弊感の解消までにはいたっていない。	今年度から学校評価の一層の活用を図るため、学校評価アンケートをすべての保護者に依頼した。その結果、学校教育目標等に根差した教育活動が行われていると回答した割合は9割を超えている。 今年度はコロナ禍の中、学校祭や見学旅行などの学校行事が相次いで中止となり、保護者からは止むを得ないというご意見が多く寄せられた。 今後は、より多くの回答が得られるよう改善を図るとともに、学校課題の共有化とその解決に向けた具体的な方策の明示に努めていく。
改善方策	○「重点目標」に沿った指導上の重点事項の実施状況が検証できるよう、評価の観点により明確化する。また、学校評価を活用することにより、職員間の課題の共有化と課題の解決に向けた具体的な方策が明示できるよう一層の改善に努める。 ○学校課題を踏まえた実効的な研修テーマを設定し、組織的に解決を図るための研修を計画的に実施する。また、教員一人一人が経験年数や校内での役割（立場）等に応じた自己課題に基づく研修を促す。 ○部活動指導の改善に向けた対策を関係機関とも協議し、教職員の負担軽減を図る。	
学習指導	自己評価アンケートにおいて、公開授業等や授業評価観などの項目が前年度より上昇しているが、授業評価を活用し授業改善の積極的な取組までには至っていない。 教員一人一人だけでなく、教科内において指導の統一を図るなど、組織的な体制を整え、計画的に指導にあたる。	肯定的な回答が前年度より高くなっているが、教科担任の一層の指導力向上を求める声が増えている。生徒の主体性等を高める授業改善に一層取り組むことが求められている。また、Wi-Fi導入など、学習環境の整備が進められ、次年度からその活用を積極的に行う。
改善方策	○今年度から55分授業を実施し、生徒・教職員ともに大きな問題はない。令和3年度からは単位制となるとともに、令和4年度からの新学習指導要領を見据えた教育課程の編成を早期に行う。 ○シラバスの見直しを図り、効果的な活用について研修する。 ○生徒に、主体的、対話的な学習に取り組ませるため、アクティブ・ラーニング型授業を積極的にとり入れるなど、授業改善を図る。 ○教科横断的な視点から探究活動の充実を図ることで、各教科・科目における授業改善につなげていく。 ○授業改善に向けた教員個々の実践を教科間で共有するとともに、学習評価に関する研修を計画的に実施して、指導力向上を図ることで生徒の成長につなげていく。	

進路指導	今年度からはじまった大学入学共通テストでは、トラブルなく終えることができた。次年度は、ポートフォリオ等を一層活用し、出願指導に生かしていく。また、模試の結果分析など、情報提供を求める意見が多くみられた。 調査書などの書類作成については、昨年の反省を踏まえ、改善を図った。	保護者からは肯定的な意見が多い一方、一層の情報提供を求める声が多かった。地域と連携した校外活動の充実など、生徒が多様な視点で進路を考える機会を増やして欲しいという昨年の意見も踏まえ、次年度はインターンシップなどの学びの機会の充実を図っていく。
改善方策	○進路シラバスの改善を継続し、将来を見通したキャリア形成の実現を目指す。 ○キャリア教育に関するウェブページの充実を図り、生徒のみならず保護者も交えた進路意識の涵養を図る。地域の人材を活用したキャリア教育の充実など、地域との連携強化に向けて検討を進める。 ○生徒の学習状況や模擬試験等の分析を進め、課題を明確化しながら改善に努めていく。 ○調査書等の書類作成など、新入試に向けた改善をより進めるとともに、生徒や保護者への情報提供についても改善を図っていく。	
生徒指導	今年度は生徒の行事等が中止・変更したりなど、主体性を高める取組を満足に実施することができなかった。 また、SNS利用における定期的な指導、いじめの早期発見への取組については、ライフサポートグループ及び学年団を中心に適切に行うことができた。	学校評価アンケートでは、校外での服装指導（特に女子のスカート丈）の充実を求める声があった。一方で、生徒の明るく礼儀正しい態度に感心する声が聞かれた。今後とも、基本的生活習慣について、継続した指導を行っていく。
改善方策	○ネットトラブルの防止については、入学後の早い時期に全体指導を行うとともに、定期的なネットパトロールにより、書き込み等のあった当該生徒へ指導することで事故防止に努めている。 ○いじめアンケートの活用や、HR担任による日常的な面談指導を通じた取組を継続する。	
健康安全	多様化する生徒へのきめ細やかな対応について、ライフサポートグループ生徒支援チームと学年団が、スクールカウンセラーや、専門機関との密な連携を図り、個別に対応する支援計画を作成するなど、きめ細やかな支援体制を確立して実践することができた。 危機管理については、新型コロナウイルスの感染対策をはじめ、防災対策など危機に対する対策を講じていく。	自転車の乗車マナーや、公共交通機関の利用について改善を求める声が市民の方から数件寄せられた。また、保護者からは、新型コロナウイルスに係る情報提供を求める声が多かった。社会の一員としての自覚や行動を求める指導を工夫・改善するとともに、健康安全についての指導を継続して行っていく。また、家庭との連携を密にしながらについて感染防止に努めていく。
改善方策	○新型コロナウイルスへの対応について、関係機関と連携しながら感染防止に努める。 ○多様化する生徒への支援について、現在の組織体制を維持するとともに、担当者だけでなく、幅広く教職員の協力を促す。 ○生命の尊重や健康安全に対する意識を高めるための指導を継続するとともに、実効性のある避難訓練の実施など危機管理意識が向上できる取組を引き続き推進する。 ○自転車や歩行者マナー等に関する指導について、警察等とも連携するとともに日常的な啓発を行う。	

理数教育	S S H事業について教職員の多くが肯定的な回答をしている。三期目を見据え、事業を先行実施することで、課題を整理し、改善を図っている。事業を全校体制で取り組み、地域にも活動内容の周知を図るとともに、共同で事業を展開して更なる発展に繋げていく。	学校評価アンケートでは、多くの方が高い評価をしている。S S H発表会における報告者の態度だけでなく、聞く生徒の態度も立派であると高い評価を得ている。発表内容は年々向上しており、本校の取組を積極的に地域に発信し、中学生や地域の方々の理解を深めていく。
改善方策	○S S H事業について、ウェブページでの情報発信に努めるとともに、次年度からは課題研究発表会に市内他高校への参加を呼びかけるとともに、S S H講演会等を地域へ公開する。 ○S S H事業の全校的な取組を進めるとともに、業務内容の分担について改善を図る。 ○S S H事業を通して育成する力について、達成度を評価する方法を検討する。 ○旭川市をはじめとする近隣の自治体や、旭川医大・教育大旭川校と一層の連携を図り、事業内容の深化を図る。	
開かれた学校づくり	オープンスクールや中学校への学校訪問等を活用して本校の教育活動の周知と理解の深化に努めた。一方で、本校を志望しながら受検を辞退する中学生も多いことから、本校の特色について改めて周知と理解を図る。	学校評価アンケートにおいては、全体的に評価は高いが、学校からの情報提供を積極的に求める意見や地域との連携など、改善を望む声が聞かれた。保護者との連携を向上させるため、P T A活動の一層の充実を図るだけでなく、本校の教育活動の理解を深めるための方策について検討する。
改善方策	○本校ホームページの速やかな更新を継続するだけでなく、学校からの情報を確実に保護者に伝わる方法を検討し、保護者や地域に向けた有益な情報が提供できるよう改善を図っていく。 ○P T Aとの連携を密にし、地域と連携した教育活動の充実について検討する。 ○オープンスクールや中学校への学校訪問の際の説明内容を検証し、本校の教育活動の周知と理解を深めていく。 ○入学者選抜について検証し、選抜方法の改善を図る。	
公表方法	・学校評議員会、P T Aの役員会等での公表及び本校ウェブページでの公開。	